

ふれあいと語らいの同窓会

東実同窓会報 No.18

発行 〒144-0051 東京都大田区西蒲田8-18-1 TEL 03-3732-4481

東京実業高校同窓会会報部
http://www.tojitsu-dosokai.com



同窓会の部屋



第34期 会長 本田 位公子

新年にあたり、同窓会会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

母校の東実祭には毎年同窓会も参加させて頂いており、その一環としてイベント会場のテントで「どら焼き」を販売しております。「どら焼き」には校章の焼き印が押ししており、なかなか好評で繁盛し、早々に完売となります。少しばかりですが、売上げた利益は全て生徒会に寄付させて頂いております。

また、一号館二階の教室をお借りして、「同窓会の部屋」を開設しております。そこでは卒業生のアルバムを展示したり、総会等の写真を飾るなどして部屋を賑やかに飾り付け、皆さんをお待ちしております。

「同窓会の部屋」へは保護者の方が立ち寄って下さったり、あるいは古い卒業生が「孫が通学しているので…」と言って、立ち寄って下さるので中々忙しく活動しております。特に、この時期には小島（浩）先生がお手伝いに来て下さっているので、先生を訪ねては話に夢中になる卒業生も多く、ここにも私立学校の良さが実感できる微笑ましい光景が見られます。

在校生も時折訪ねて来て先輩方のアルバムを覗き、携帯に撮っては「キャーキャー」はしゃぎ、それは楽しいひとコマです。女子高生の中には、「私がこの部屋を宣伝してあげる！」なんて、張り切ってくれる生徒もいて心強いかぎりです。これらのことは同窓会の活動を広く知ってもらうチャンスでもあり、嬉しく思っております。

同窓生の皆様、このような機会に是非母校に足を運んでみてはいかがでしょうか。

話は変わりますが、このところ「いじめ」や「虐待」の報道が相次いでおります。私は子供を持つ一人の親としてそのような痛ましい記事に心を痛め、「どうして！なぜ！」と叫びたい気持ちでおります。しかし、幸いにして我が母校にはそのような怖い状況はなく、ホッと安心している次第です。

昔から「親には孝行」、「子供には慈愛を」と言う言葉を聞かされてきましたが、お互いに思いやる心は忘れたくないものです。



平成18年度同窓会定期総会2006.6.10
“プラザ・アペア”



東実同窓会活動



理事長 上野 雅子

同窓会の集まりは一年に3回程あり、毎年一月は新年会、六月には総会、そして、九月には一泊旅行と、とても活発な活動をして下さっています。

ここ数年の新年会は、賛否両論があるものの、同窓生、現父母会の委員さん達、お子さんを卒業させた旧父母の方々の桜美会が一緒になって開催されております。毎回、大勢の方々が出席して下さい、大変賑やかに新年を祝っております。

同窓生は女性の出席者も多く、また、ご高齢にも拘らず毎年出席して下さいの顔なじみの方々もいらして、昔の学校の様子や私の祖父や父の話など私の知らないことを話して下さいたり、楽しいお話を伺ったりして、大変有意義に過ごしています。この数年は、卒業したての若い同窓生を積極的に誘って下さり、毎年何名かは澆刺とした20歳前後の若者達の姿も見られて嬉しく思います。とかくこういう集まりを嫌う若者達が多くなり、人と人とのつながりを大切にしない風潮ですが、我が校の生徒達がすばらしい先輩達にお会いして、それを機会に、また、大きく成長していってくれることを願っております。

六月の総会は、概ね顔ぶれは決まっていますが、役員の皆様が大変熱心に取り組んで下さっている様子を拝見し、いつも有り難く思っております。皆様それぞれご自分の仕事を持っておられ、時間を作られるだけでも大変なことと推察していますが、分担を決められて活動して下さいることに、感謝申し上げる次第です。

一泊旅行では、いろいろな温泉に連れて行っていただきましたが、場所を決める幹事さんは、毎年苦労していらっしゃるでしょう。昨年（平成18年）は参加出来ませんでした。今年の皆様と一緒に出来るのを楽しみにしております。

その他、文化祭には、同窓会前会長の山本徳太郎様が経営なさるアルベリからの出店で、顔見知りの同窓生の方々が今では名物となっている校章の焼き印をつけた「どら焼き」を売りに来て下さっています。その利益は毎年寄付して下さいるので、有意義に使わせていただいておりますことをご報告いたします。

このように同窓会の活動は、学校と常に密接に拘って下さっていて、心強い力となっております。

これからはもっともっと20代、30代の同窓生が仲間に入り、益々活発になってくれますようお願いしております。



平成18年度 同窓会定期総会2006.6.10 “プラザ・アベア”

「平成18年(2006)に思うこと」



学校長 上野 毅

同窓生の皆様方には常にご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

国は、現在「教育基本法改正」という改革を進めています。その中身には、まず「愛国心を持って」ということが書いてあります。私に言わせれば、これはあたり前のことであり、何も法律で決めることではないように思います。人々が愛国心を持てる国になって行けば、自然に愛国心は芽生えてくるのです。それをリードするのが政治家の務めであると思います。

しかしながら、今、「日本はよい国だ」、「ずっと住み続けたい」と、思えるのでしょうか。

愛国心と愛校心はよく似ています。私は同窓生が卒業後も母校に立ち寄ってくれる学校にならなければならないと思います。同窓会が盛り上がるには、学校が学業やスポーツで活躍するのが重要だと思っています。

ここ数年、わが校の実績を挙げれば、陸上競技部が3年前に高校駅伝で東京都代表になり、京都の都大路を走ったことは記憶に新しいところであります。

さて、今回の駅伝では残念ながら前回に続いて2位となりました。その後行われた関東地区選抜駅伝(8都県代表上位各都県6チーム)では、出場48チーム中5位という輝かしい成績をあげました。特に、都大会で優勝の早稲田実業、神奈川県大会で優勝の藤沢翔陵高校に勝ったことは特筆に値します。

マーチングバンド部は、昨年12月、全国大会に出場し、金賞を受賞しました。

次に、ビジネスコース卒業生が弱冠二十歳で公認会計士試験に合格をしました。これは全国最年少の合格となります。また、一昨年度は高校2年生で第一種電気工事

士試験に見事合格した生徒もおります。

このような成果は、本校の教育の成果であると自負しております。

専門高校としての本校は、資格取得を教育目的の一手段として推奨しています。また、普通科文理コースや機械科の生徒が電気工事士試験に合格するなど、他系列の分野まで挑戦する生徒が増え、自学自習する主体的な取り組みが実績をあげつつあります。

主体的な取り組みの出来る生徒がますます増えて行くことが、我が校の活性化に大いに寄与して行くと思います。

この文章は、青木副校長の「学校近況報告」と重なる部分が多いと思いつつ、嬉しさのあまり書いてしまいました。



全国大会出場のマーチングバンド部

●● 楽しい室内空間作りのお手伝い ●●

インテリア 遠藤商店

〒146-0085
東京都大田区久が原3-34-12
TEL(03)3752-3027 FAX(03)3752-3359

第22期 遠藤 孝一

楽しい日本語を大切に

株式会社 佐々木印刷所

☎146-0095
東京都大田区多摩川1丁目18番5号
TEL.03-3758-0710
FAX.03-3758-2821

第56期 佐々木 健

学校 近況報告



副校長 青木 英二

■卒業生・入学生の状況

昨年3月3日の卒業式では、男子305名、女子58名、計363名の生徒が卒業しました。最近の卒業生の進路は、進学が約7割になりますが、昨年も大学・短大に29%、専門学校28%となり前年度とほぼ同じ進学率となりました。就職率は約20%で前年より若干下回りましたが、企業からの求人数は大幅に増加し、就職希望者の選択の幅が広がり就職難が少し緩和されました。大学の進学者の中には、難関校の上智大学に合格した生徒がでるなど、進学指導の成果も上がってきました。

平成18年度の入学者は、男子375名、女子98名です。少子化が進む中で、前年より20名増加しました。

■生徒8名が米国での姉妹校交流

米国コロラド州ボルダー地区の高校との姉妹校交流に、昨年は宮地裕先生（国語科）の引率で、5月5日に女子6名、男子2名の生徒が出発しました。

1967年に第1回目の交換生がボルダー高校から来日して以来、隔年毎に往き来をしています。現在では多くの学校で実施している国際交流を、本校では39年間、歴史と実績を重ねて来ていることに、改めて誇りを感じています。

8名の生徒は、7週間米国の学校において多くの人との交流と学習を体験し、そのことで自分が成長したことへの実感を深めて帰国しました。

めつき材料総合商社

株式会社 三 松

本社 東京都大田区西蒲田7-57-11
〒144-0051 TEL (03) 3733-7131 (代)
湘南営業所 藤沢市辻堂西海岸2-14-45
〒251-0047 TEL (0466) 34-1711 (代)
横浜営業所 横浜市神奈川区恵比寿町7-5
〒221-0024 TEL (045) 461-6088 (代)

第17期 村松 濱代

■各クラブの活躍

*マーチングバンド部

昨年でクラブ創部30年となる吹奏楽部は、「マーチングバンド部」として、新たな歴史を刻みます。その記念すべき年のマーチングバンド東京大会と関東大会を1位で勝ち上がり、12月17日(日)に埼玉アリーナで行われた全国大会では見事金賞を受賞しました。

*陸上競技部

11月3日(金)に行われた第57回全国高校駅伝東京都予選会で、本校は前回に続き2位となり、全国大会出場は出来ませんでした。しかし、その後の11月25日の関東高校駅伝では5位に入賞し、都大会1位の早稲田実業を抜き、都の出場校の最高位となりました。

平成19年1月21日に広島で開催された全国都道府県対抗駅伝大会で、本校普通科3年の前田信哉君と羽生健人君の2名が、高校生区間の代表として出場しました。

*レスリング部

11月18・19日に行われた都の新人大会で、1位1人、2位が2人、3位・4位に1名ずつ入賞しました。レスリング部の栄光の復活に期待が集まっています。

■教職員の異動

*新任教職員

体育科 松田 稔先生
研修所長 佐藤 和男さん
事務 木村 聡さん
用務 高橋 嘉秀さん

*退職教職員

機械科 久保 晟先生
体育科 浅賀 英雄先生
電気科 横幕 正一先生
研修所長 飯塚 龍寿さん
用務 久保田堅次さん

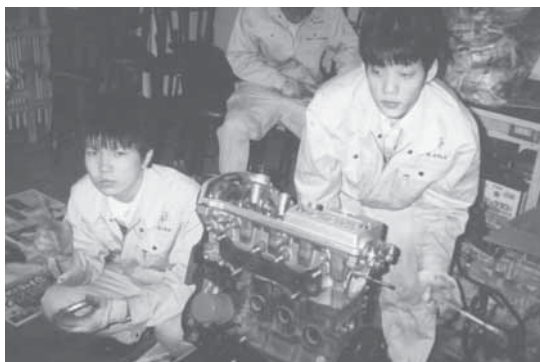
機械科の 現況報告



科長 金子 健一

80余年の歴史をもつ機械科では、毎年多数の卒業生が東京及びその近県で活躍しています。機械科で学んだ技術は工業の基礎技術として、あらゆる産業分野で必要とされていることがわかります。このため、機械科では機械の設計、製作、操作、管理などの基礎技術の習得以外に、コンピュータを使用した自動化システム（CAD/CAM、NC、MC）、レーザー加工機、3次元モリブデン加工機などを導入し、それらの最新のマシンの実習を通じて技術革新のめざましい産業現場で活躍できる人材の育成をめざしています。また、資格試験の他に各種技能講習会に積極的に取り組ませて『やれば 出来た』の自信をつけさせています。

3年間の機械科の内容を説明します。専門的な内容を理解するには基礎学力が大切です。そこで、1年では中学で学んだ数学などの基礎学力を強化する補習授業を行いながら、機械科としての基礎を勉強します。2年では体験を通して学ぶ実践的な実習や実験を通して総合的に学習を進めつつ、将来の進路に必要な資格取得や各種技能講習をサポートし、充実した高校生活にしています。3年では一人ひとりの進路に応えるべく、進路に必要な科目や学習法、社会で通用する実践的知識を学ぶことで、問題を自らが解決する力を身につける指導をしています。



分解したエンジンの組み立て実習

電気科の 現況報告



科長 小椋 幸江

平成18年度も電気科は一クラス（28名）でスタートしました。募集人数は95名（二クラス）ですが、「少子化」や「工業離れ」などの様々な要因により、電気科二クラス体制が維持出来ない状況です。しかし、電気科では今こそ少人数編成での技術者教育が可能であると考え、教員全員が全力で綿密な指導を実践しています。特に工業技術者育成のために不可欠な電気実習に力を入れており、現在では弱電分野の技術進歩が著しく、実習でもこの流れに沿うべく、基礎である電子工学実習、自立型ロボットを使用したコンピュータ制御やコンピュータリテラシー、コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの基礎を学ぶワンボードマイコンなどを教育課程に取り入れています。例年、同窓会報でご報告させて頂いている、「第二種電気工事士国家試験」の合格者ですが、平成18年度は電気科二年生8名・三年生4名、機械科二年生が2名の14名が技能試験を受験し、13名合格。また、上級資格でもある「第一種電気工事士」も、平成17年度に二年生が1名合格しております（二年生合格は本校初）。また、平成18年も三年生1名が合格しました。

電気科は平成18年度より共学となりました。厳しい状況ではありますが、一人一人の個性を尊重し、優れた技術者を育成すべく、さらに努力する所存でございます。

同窓会の皆様、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



平成18年度第二種電気工事士合格者

普通科の現況報告

「文理コース」

コース長 関根 章道



文理コースは、今年度全学年3クラスでスタートしました。

1週間の学習内容を次週の初めに確認しようと昨年からはじめた「到達確認テスト」も2年目を迎え、土日に復習するといった生徒も増え、その成果も少しずつ見えてきました。さらに、今年度から2学年で学習する国語・英語・数学について、習熟度別クラス編成で授業をしています。2学年となり授業内容が難しくなる中、個人の力に合った授業を受け、少しでも理解を深めてもらおうと考えたからです。定期試験や学期ごとに編成を替えながら授業を展開しています。

文理コースのこれからの課題として、各季の講習会をより充実したものにしていくことと、五日制になり授業時間が減っている中で、何とか土曜日をよりうまく活用できないかという点を現在検討中です。

「いよいよ、大学全入時代到来」などと報道で見聞きしますが、それは単なる数字のマジック。人気が、難関校はさらに厳しくなっているのが現実です。

文理コースでは、進学率はもちろん、その質も高めるためにこれからも取り組んでいきたいと考えています。

「ビジネスコース」

コース長 原田 忠彦



11月1日現在の普通科

ビジネスコースは1学年202名、2学年173名、3学年203名で合計578名という本校の中で、最も大きなコースとなっています。男女比も396対182と、ほぼ2対1の割合です。商業科が共学化し、普通科ビジネスコースになって、ようやく5年が経ちました。過去にあった別学の状況とは大きく違い、考えていたよりも生徒自身が明るくのびのびとしているように感じます。

現在、簿記検定・情報処理検定と様々な資格取得のための検定試験に一人でも多くの合格者を出したく、専任8名と講師7名の教員が補習に取り組んでおります。

合格することにより自信を持ってもらいたいと考えております。

進路においては就職希望者が少なくなり、専門学校進学者が大半を占め、次いで大学進学希望者の割合となっています。

これからも生徒・教職員一体となって、さらに前進していこうと思います。

同総会ホームページURL
e-Mailアドレス

<http://www.tojitsu-dosokai.com>
info@tojitsu-dosokai.com

スポーツのことなら!

しろかね

白銀スポーツ

ユニホーム・スポーツ用具
用品・施設・工事一般
カップ・賞品・トロフィー

〒143-0024 東京都大田区中央8-29-7

TEL(03)3754-8679 FAX(03)3754-4845

第37期 白銀 正明

—企画・デザイン・印刷全般—

トータルプラン株式会社

〒144-0032 東京都大田区北糀谷1-18-14
TEL(03)5736-3447 FAX(03)5736-3448

第38期 川邊 國造

レスリング部の 現状



社会科教諭 小林 正文

本校の玄関を入りますと、右手に各クラブのトロフィーが多数飾られています。その中に、少々古くはなりましたが、2年連続で「全国制覇」をしたレスリング部の「三笠宮楯」が飾られています。東実と言えばレスリングと言われた輝かしい伝統のクラブも、平成15年に2名の部員が卒業して、とうとう部員は、1名もいなくなり、廃部の危機に見舞われました。この危機を脱するため、今までの方針を180度変更し、何とか存続させたいという思いで、浅賀先生（現在、同窓会相談役）と私とで続けてみることにになりました。実際にやってみると、想像していた以上に大変で、再出発の一年目、運良く5名の生徒が入部してくれ、私も一緒になって練習しましたが、上級生の居ないクラブは手本が無いので、準備体操一つを取っても、私が教えないとできない状態でした。

そして、私が目を離すと、プロレスごっこをしたり、関節技を掛けたりと、それは気を遣いました。そして、そんな苦難の時期を経て、四年目の現在、部員も10名となり、ようやくクラブらしい形になり、また、昨年度から体育科の講師として、OBの星野先生が面倒を見てくれるとなると、部員のクラブや試合に対する意識も大きく変わり、自主的に朝練習をしたり、日曜日もOB会の全面的協力を受けて練習するようになり、部員の力も大変向上してきました。

同窓会の皆さん、ぜひレスリング部を応援して下さい。



レスリング部

生徒会報告



生徒会会長 唐沢 理恵

昨年の5月31日に、生徒会役員選挙が行われました。新しい役員が決まり、現在の生徒会が始まりました。6月14日には最初の行事であり、各委員会の抱負や生徒から出された要望案の承諾を得る生徒総会が行われました。

2学期には、体育祭、先生と生徒の懇談会、東実祭が行われました。体育祭は、昨年と違い各色のTシャツを作りました。また、私達生徒会が案を考えた新しい競技も加えました。昨年よりも盛り上がり、天気にも恵まれ、楽しい体育祭になりました。

生徒会が主催した「先生と生徒の懇談会」ではより良い学校生活を過ごすことができるよう、生徒総会で出された要望案について話し合いをさせて頂きました。学校に対して生徒会や代議員の生徒達から活発な意見が出され、先生方もそれに真剣に回答してくださり、とても充実した会になりました。

東実祭では、様々なイベントや企画があり、全校生徒や来校してくださった皆様にも、楽しんで頂けたと思います。

今後も、より良い学校生活を目指し、生徒会一同団結して活動していきますので、温かく見守って頂きたいと思えます。

前号(No.17)の訂正

12ページの「ホームステイを経験して」のワイアット君とベンジャミン君の写真が逆でした。お詫び申し上げます。

〇〇 ゆったり 〇〇 都南ユウキ パーキング

〒144-0044
東京都大田区本羽田3-23-46
TEL・FAX 03 (3745) 0891

同窓会近況報告

平成17年度 収支決算報告書

自 平成17年4月1日

至 平成18年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	17年度予算	17年度決算	科目	17年度予算	17年度決算
前年度繰越金(普通)	3,463,185	3,463,185	事務消耗品費	600,000	458,868
入会金	3,500,000	3,630,000	通信連絡費	450,000	326,295
寄付金	100,000	120,000	管理費	550,000	522,102
広告費	60,000	60,000	印刷費	100,000	29,295
東実祭	200,000	201,100	会議費	550,000	440,257
受取利息	200	7	総会費	350,000	265,020
雑収入	0	0	旅行費	200,000	103,866
			新年会費	200,000	102,872
			東実祭	200,000	200,000
			会報発行費	400,000	308,682
			慶弔費	500,000	196,139
			卒業記念品費	300,000	294,462
			助成費	200,000	120,000
			寄付金	300,000	283,500
			積立金	0	0
			交通費	50,000	10,360
			予備費	300,000	0
			次年度繰越金(普通)	2,073,385	3,812,574
合計	7,323,385	7,474,292	合計	7,323,385	7,474,292

積立金等次年度繰越金内訳 (別途会計)

金融機関名	前年度残高	増	減	利息	本年度残高	備考
定期預金(みずほ)	8,041,726		0	1,934	8,043,660	定期預金
定期預金(三菱東京UFJ)	10,000,000		0	0	10,000,000	定期預金
債券(中国ファンド)	2,219,366		0	282	2,219,648	債券
債券(MMF)	10,925,065		0	1,918	10,926,983	債券
合計	31,186,157		0	4,134	31,190,291	

平成17年年度の収支報告書を監査致しました。
その結果適正且つ妥当であることを認めます。

会計監査

笠原 忠雄 印

小島 浩 印

平成18年5月23日

平成18年度 事業計画書

【既に実施・開催された事業については、その内容を報告に代えさせていただきます】

【事業部】

- 事業…(実施済)
 - ・新年会の企画・運営・管理
日時：平成19年1月27日(土曜日)
会場：ローズホテル(横浜中華街)
会費：8,000円
- 旅行…(第24回目実施済)
 - ・旅行会の企画・運営・管理
日時：平成18年9月30日(土)～10月1日(日)…1泊2日
行先：群馬 水上温泉
会費：30,000円 参加者：20名
- 東実祭…(実施済)
 - ・同窓会の部屋設営・管理
日時：平成18年11月4日(土)・5日(日)
同窓会室に、各卒業年度のアルバムの展示、
「どら焼き」の販売など。

【会計部】

- 年度会計管理

【総務部】

- 総会…(開催済)
 - ・総会の企画・運営・管理
日時：平成18年6月10日(土)15時～
場所：プラザ・アペア(蒲田)
懇親会…会費：3,000円
(総会後、同会場で開催)
- 庶務
 - ・同窓会に関する庶務全般
 - ・会員名簿管理
 - ・各期の幹事の方へ同窓会参加への推進

【企画部】

- 新規事業及びホームページ管理等の企画運営
- 会則に関する事項等

【会報部】

- 会報編集発行(18号発行)

平成18年度 同窓会組織図

名誉会長
上野 毅(学校長)

会長
34 本田 位公子

★氏名の前の数字は「卒業年度」です。
★副会長・顧問・相談役は就任順、他の役員は卒業年度順です。



平成18年度 定期総会

平成18年6月10日(土曜)午後3時から、蒲田南口「プラザ・アペア」において開催されました。

議長に本田会長が選出され、右の「定期総会式次第」第四第3項の議決事項の議案が全て承認可決されました。役員改選では、本田位公子会長が再任となりました。

尚、本総会の出席者は会員78名、学校関係者14名、合計92名でした。

総会終了後、同会場で「懇親会」が開催され、懐かしい在校時代の話やビンゴゲームを楽しむなど時間が経つのを惜しみつつ、最後は全員で校歌を合唱して、つつがなく終了したことをご報告致します。

ご多忙中のところ、お集まり頂きました皆様には、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。(総務部)

- 定期総会式次第**
- 一 開会の辞
 - 二 挨拶
 - 1 会長挨拶
 - 2 学校長挨拶
 - 三 議長選出
 - 四 議事
 - 1 議事録署名人の選出
 - 2 報告事項
 - (1) 平成17年度事業報告
 - 3 議決事項
 - (1) 第1号議案 平成17年度収支決算報告書並びに監査報告書
 - (2) 第2号議案 会則改正(役員)
 - (3) 第3号議案 任期満了に伴う役員改選
 - (4) 第4号議案 平成18年度事業計画(案)
 - (5) 第5号議案 平成18年度収支予算(案)
 - 五 校内幹事並びに新幹事紹介
 - 六 閉会



懇親旅行



第29期 亀田 信義

昨年の9月30日～10月1日に実施された一泊二日の懇親旅行に参加した。

母校を九時に出発して、関越自動車道を走る車内では、早速カラオケやビンゴゲームが賑やかに始まる。

逢う度ごとに、遙か昔の母校の話……。楽しかったこと、懐かしい想い出話がつきない。

大先輩達、下級生達の面々が健康で元気にこの旅に出席出来たことに感謝しながら、呑むほどに酔うほどに、あちこちから聞こえる昔の学校の様子などを耳にし、バスに揺られて目的地の谷川岳に到着した。

土合口からロープウェイに乗り、目前に広がる雄大な光景は近づく秋の紅葉が待ちどおしいようであった。冬には大勢の若者達のスキーを楽しむ様子を思いうかべながら、天神平からリフトで頂上に向かう。

ロープウェイで見た景色とは違って、直接見た景色は格別で足がすくむようであった。本当に今日は、東実同窓生を祝うかのように天候にも恵まれ、壮大な谷川岳の全貌を仰ぎながら、これまでにない感動を覚えている自分であった。

昨夜、温泉に入ったせいか朝食がとても美味しかった。

旅館を出てしばらく溪谷を散歩していると、蛇やリスに出会い、幼い頃の気持ちになって年がいても楽しくはしゃぎながら溪谷の美しさを満喫して沢下りを楽しむ。それにしても、皆さんの元気な足取りには羨ましいかぎりでした。

次回も沢山の仲間が出席されることを望み、懇親旅行を楽しみにしている。



参加者一同



東実祭



第29期 箕輪 弘数

生徒達の躍動感溢れる東実祭が、平成18年11月4日・5日開催されました。

同窓会も毎年参加しており、開催前日に、「同窓会の部屋」の飾り付けを本田会長他、幹事6人で行いました。部屋の中央には卒業年度順にアルバムが置かれ、壁には卒業生の企業案内、趣味の油絵、写真、短冊が展示され、お土産には筆立て、チギリ絵等が用意されました。なお、机上には鉢植えの真っ赤なシクラメンが飾られ、教壇には黄色い小菊、柿、ミカンが何気なく置かれ、秋を感じさせる演出がありました。

同窓会の恒例として、平成11年より「校章入りのどら焼き」2000個を売る事業があり、今年も皆様方の協力により完売しました。4日には理事長がお孫さんを抱っこして、同窓会室にお披露目に来てくれ、翌5日にも校庭のどら焼き売場に、またまた、抱っこをして激励に来て頂き、ほほえましい姿が印象に残りました。また、4日に、昭和27年に中学を卒業された同窓生が同窓会室へ卒業証書を持参し、小島（浩）先生と小生とで1時間以上昔話に花を咲かせ、感動して再開を約し、帰って行ったことが心に残りました。東実祭には、是非、同窓生の皆さん、奮ってご参加下さい!!



同窓会の部屋にて



ドラヤキ売り場にて

「同窓会の部屋」 利用の楽しみ



第20期 香川 政一

●「同窓会の部屋」

毎年、東実祭に開設されるこの部屋で、アルバムを手に触って、回想にふける至福の部屋であります。設営と管理にあたる幹事の皆様に、感謝とお礼を申し上げます。

●「20期会」

「想定上、最後の20期会」は、平成17年12月10日に蒲田駅ビル「パリオ」にて、17名の参加をみて開催し、色紙寄せ書きに上野校長からも揮毫を頂きました。

●「古O・Bの自習」

3学年から国のために、学徒工員として動員させられたので、4～5学年も授業は空白のまま卒業しました。ドイツの哲学者が「過ぎ去りしものは、たとえに過ぎない」と、残しています。同級生全員が同じ境遇ですから、恨んでも始まりません。自分で空白を埋めるよりほかはありません。そこで、母校を訪れて、事情をお話して、小畑先生には「計算実務」を、斉藤先生には「基礎製図」の教本を頂きました。母校の両先生のご配慮に改めて感謝申し上げます。

●「末記」

本来ならば、20期代表幹事の竹中邦夫君が執筆するところですが、東実祭の当日、本田会長から、直接私が執筆の依頼を受けましたので、僭越ですが、以上筆をとりました。

卒業後58年の絆

一段と強まる —第23期同窓会—



第23期 塩野 理二

平成18年度の、第23期同窓会は、18年6月21日正午より川崎駅ビル・カメラアルホールにて開催された。

参加者は山本徳太郎前同窓会長はじめ14名で、恒例の通り参加者全員が、ひと言ずつ各自の近況を報告し、欠席者の近況を把握している場合は、それを紹介したりで、58年を経過した今も、旧友の消息に心配りを続けた。

小島浩氏からは、一段と内容が充実した母校の近況報告を受け、同窓会報が配布された。そのあと約2時間懇親会がもたれ、卒業してから58年の時の流れを超えて、在学中の懐かしき思い出ばなしに盛り上がり、母校の発展を願いつつ、吉本左泰氏のハーモニカの伴奏で校歌を斉唱し、閉会とした。(準備委員：宮島昭五郎、長瀬尚午、塩野、集合写真：最上輝之)



出席者一同

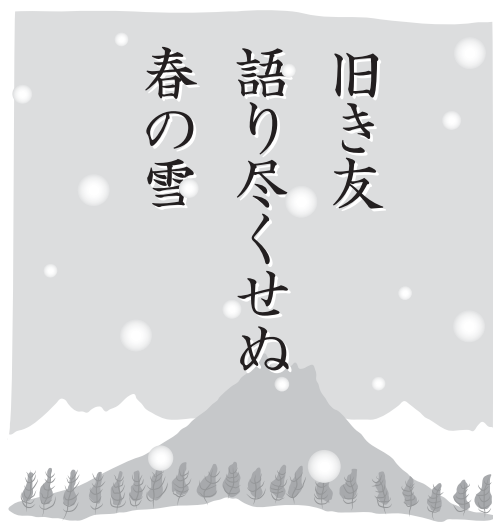
箱根仙石原で 心暖まる同期会開催



第32期 石井 澄枝

箱根仙石原ラスパル仙石に於いて、浅野

(旧姓：益田)さん幹事のもとに6名が集まりました。京都から森(旧姓：松波)さんが駆けつけて、私、石井とは卒業以来49年ぶりです。空白はなく、すぐにワイワイ・キャッキヤッと語り始めました。あくる朝7時に浅野さんが、私を起こしに来て、「雪が降っていて、積もっているよ!」との言葉に、障子を開けると箱根仙石原にふさわしい風景で、心が和みました。そして一句。





第17期 羽下 良夫

私が夢多き東京実業高校時代を過ごした昭和16・17年頃は、太平洋戦争の真只中で、連戦連勝の最も戦争の熟した時であった。クラスの中には、卒業を待たずに陸海空の少年飛行兵を志願して征った者が何人かいた。兵隊ばかりでなく満蒙開拓団とか満鉄義勇団など、いろいろと中国方面の軍属の募集もあった。当時の若者の胸は、愛国の血汐に燃えていた。間もない18年にはアッツ島玉砕、ガダルカナル島撤退、続いてインパール作戦もいま一步というところで補給路を断たれ、惨めな転進（転進とは、退却のことである）を余儀なくされ、敗戦の道を進んでいるとは露知らずに…。私には、伊藤啓二君と云う同級の友人が居る。なぜか、彼とは最初から馬があった。今でも交際を続けている無二の親友である。東実の入学時に偶然机を並べたのがきっかけであるから、もう70年近い交際になる。徴兵検査では二人共第2乙種であった。体力では、とても兵隊として満身に御奉公できそうにもないし、戦死も怖かった。しかし、日本人として国家のお役に立ちたい。戦争が終わっても、中国に残留していろいろ活躍しよう。卒業したら「軍属となって大陸に渡ろう。伊藤君と二人ならば心強い。卒業したら早速応募することにしよう」と二人の心は決まった。

とりえず、言葉からと云うことで…。幸いにその頃、東実には伊藤先生の中国語の授業があったのでよく勉強した。中国語の答案だけは良い点をいただいていたと思う。少しは覚えたので、今度は本物の中国人と会話をしたくなり、ある日の休日を利用して、二人で横浜の南京町（今の中華街）へ出かけた。今の中華街は、休日などは混んでおり、人気の店である「謝甜記」の粥料理や「海員閣」の肉ソバ一杯食うだけでも一苦勞であるが、当時は「贅沢は敵だ」の時代であったためか、どの店も閑散としていた。

当時は、「聘珍楼」と今は無いが「平安楼」が抜群の豪華大型中華店であったが、どちらも閑散としていたようであった。二店とも我々のような懐の淋しい青二才の立ち寄れる店ではない。適当な店を探して門をくぐると出てきたのが、若い中国服を着た色白の姑娘であった。裾の割目からひそかに覗く素足が魅力的であった。この店の娘さんのようであった。お客はわれわれ二人だけである。何を注文したか覚えていないが、ビールは客一人

に二本までだと云う。「你好」に始まって中国美人のお酌で中国語の会話が始まる。呑むほどに自作の中国語がとび出す。ビール二本空けたので、老酒だか忘れたが安い酒を追加する。三人は同年位ということもあって、すぐにうち解けていった。最後に中国語に替えた（替えたつもり）「満州娘」まで手拍子で歌う。伊藤君が私の音痴ぶりを笑って見ている。「…我是十六満州娘ウオーシーシーリウマンチュウクーニヤン…春天三月…最愛的小王等々把把…」あとは思いつかない…。楽しい時間が過ぎていく…。別れ際にハッキリした日本語で彼女が云った「そんな中国語ではまだまだ駄目よ。中国は広いのよ。もっと勉強しなさい」この一言で酒が醒めたような気がした。「謝々」だか「再見」とか云ってサヨナラをした。今の中華街を探してもその店を探すことはできない。

終戦前に故郷中国に帰ったのかも知れない…。あの墟思い通りに中国行きが先に決まっていたら、二人とも今頃はどうなっていたであろうか、時々思い出しては考えることがある。学校は戦時練上げのため十二月の卒業となる。東実を卒業して二週間後には早くも召集令状がきてしまったのだ。翌月の二月には伊藤君にもきた。中国行きを断念して、いつ再び会えるか分からない最後の旅をしようということで、東京駅から成田線銚子方面行きに飛び乗った。いつしか彼の故郷笹川に足が向いていた。

先ず、最初に佐原の軍神香取神宮に武運長久を祈り参拝した。社前で記念写真を撮る。この写真だけは母が大切に守ってくれて戦災に焼けずにすんだ一枚である。

その母も13年前に亡くなった。その夜は笹川の新茶屋、土膳、鯉屋と呑み歩きペロペロに酔って伊藤君の実家に泊めていただいた。家の方はさぞ迷惑されたであろう。伊藤君の家族の方々はよい方ばかりで、それ迄に何度かお世話になったことがある。亡くなられたお母様は仏様のような方で、いつも優しく迎えて下さった。いよいよ二人の別れが近づいたある日に、伊藤君が大事そうに真新しい千人針を目の前に差出した。「実はこの千人針は亡くなった同級生の小豆畑清美君の妹さんが作ってくれた千人針だ。一月の寒中の街頭に立って作ってくれた心のこもった千人針だ」（千人針とは戦地に向かう兵士の武運長久を祈るため、千人の女性が一針ずつ赤い糸で黄色い布切れに縫い玉を作り、兵士に贈ったお守りの腹巻

のようなもの)「俺より先に君が征くことになった。

俺が征くまでには、また作ってもらうから進呈する」と云う。小豆畑君は真面目で頭のよい生徒で当時級長をしていた。私達二人分まで頑健な体格をしていた。私など足下にも及ばない優秀な人であった。中原にあった富士通信機の陸上競技部の選手であったので、会社の運動会にたまたま応援に行ったことがあったが、間もない二年生の学期末に腸チフスに罹患し十代の若さでアットいう間に早世してしまった。もし健在であれば、おそらく地域の中堅として活躍したに違いない惜しい人材であった。たまたま彼が見舞いに行った時に病院で妹の“よしさん”と知り合ったそうだ。私はその頃まだ妹さんとは会ったこともなかったので、「折角君のために作ったものだから貰うわけにはいかない…」「持って行ってくれ…」の押問答の繰返しをしたが、結局はまだ見ぬ“よしさん”には一言のお礼も言わず気がとがめたが、折角だから厚意を受け、戴くことにした。伊藤君の友情には心から泣いた。これは小豆畑君が「必ず守ってやるから俺の分まで生きて闘ってくれ」、と妹さんの千人針に託している気がした。「胴にしっかり巻いて生きている限りどんなことがあっても離さないぞ」と心に誓って、故郷の村松の歩兵第一五八聯隊の営門をくぐった。…その後、衛生兵になる。…伊藤君も習志野東部第九部隊に入隊後、偶然にも数少ない私と同じ衛生兵になっていたのだ。

その千人針は、転進中の終戦もまじかに迫ったビルマのシツタン河支流のクン河を渡河した際、折からの雨期で増水した濁流に流されてしまったのだ。折角しっかりと腹に巻いていたつもりが、敵さんの迫撃砲弾に気をとられ、対岸に渡り終りホットした途端に気がついたのだ。その時は、小豆畑君が身代わりになってくれたのだと思った。「…死ぬ時は一緒」と、あれ程大切に腹に巻いていた大事な千人針。…伊藤君も出征迄には千人針は間に合ったが、フィリッピンの山中で敵さんの砲弾で焼いてしまったそうだ。

昭和二十二年六月。三年半のビルマ生活に別れを告げ、広島宇品港に上陸第一歩を踏みしめた。懐かしい日本の土は暖かく感じた。ビルマの土は赤かった。血の色をしていたようだった。一晚簡易宿泊所に泊まり、明日は愈々復員である。帰還の喜びと同時に、千人針を失くしたことに後悔の念が湧いてくる。無事復員することができたものの、住みなれた川崎の小田の家は戦災で焼失したため、家族は郷里の新潟県に疎開していた。伊藤君も無事復員して、思った通り小豆畑君の妹さんの“よしさん”と目出度く結婚して福島で生活していた。新潟と福島。暫くの間は離れ離れになっていたが、やがて数年後に再び会うことが出来るようになった。伊藤君は東京に戻ることになるし、私は仕事の都合で毎月上京する用事ができてきた。

顧みれば、彼と最初に二人旅をしたのは熱海だった。学校の卒業旅行の修善寺の帰り、担任の田中先生の許可を得て、フラフラと二人は熱海駅で下車。海岸通りの砂浜にあった「お宮の松」あたりを散歩して、目の前の古い和風旅館の「大月旅館」(現在の大月ホテル)に泊まることにした。正面二階から太平洋の波の音と青い海が広がる素晴らしい部屋であった。モトという名の中年の仲居さんが係りについた。彼女は私達と同じ年頃の息子さんを故郷にのこして働きに来ていると言っていたが、我々を自分の子供のように、可愛がってくれたことを覚えている。短い一夜であったが楽しい思い出になった。

翌日、帰宅が遅いので母が心配して学校まで尋ねて行ったことも知らず、ノコノコと帰宅した途端大目玉をくらってしまった。親に心配をかけたことは悪いことなので平謝りしたことがあった。それからは益々彼の友情の絆が深まっていった。その後、母の許可を得て千葉方面に度々遊びに行った。伊藤君と一緒に許してくれた。犬吠崎の灯台下の砂浜で、雄大な太平洋を眺めながら、将来を語りあったり、相撲をとったりして遊んだ。笹川の彼の実家にも度々泊めて貰った。「むすびを作ったから、お昼に食べて下さい」とお母さんが大きなおむすびを作ってくれた。利根の川風に吹かれながら、ある時は銚子の浜の潮風を浴びて、手作りの純米のおむすびは実に美味かった。親しい友人と旅するのは楽しい。青春の悩みを打ちあけながら、夜の更けるのも忘れて語りあったこともあった。さて、戦時、敗戦、戦後の混乱期もなんとか生き延びて、暫く振りの再会を喜び合うと、また昔の二人に戻ってくる。二ヶ月に一度は暇をつくって赤提灯をくぐることができた。年に一度は一泊の小旅行が楽しみのようなになる。彼も何度か新潟まで足を伸ばしてくれた。佐渡、弥彦、魚沼方面、会津まで足を伸ばしたこともあった。東京近郊もあちこち歩いた。懐が淋しいときは桜木町で下車して、大岡川畔に並ぶ屋台の安酒をハシゴしたことも一度ならずあった。今は無くなったようだが、近くに「根岸屋」という酒場があった。バンド等も揃っており、一寸グロテスクなあまり品のよい店ではなかったが、安いののでいつも混んでいた。当時、誰が唄ったか忘れたが「カスバの女」という退廃的でエキゾチックな歌が一時ヒットしていたことがあった。

「望郷」の映画の舞台となった北アフリカのカスバの酒場の歌で、「涙じゃないのよ浮気な雨に ちょっぴりこの頬濡らしただけさ ここは地の果てアルジェリヤ どうせカスバの夜に咲く 酒場女のうす情け……」

こんな歌が似合う酒場だった。二人とも歌が好きだし、また酒も強かった。

今年の四月二十九日に、慣例の同級会が蒲田駅ビルの「銀座アスター」で恩師の河野先生を囲んで行われた。

先生から写真を撮っていただいたりして、先生はまだ

まだお元気でおられる。先生を指標として、これからも頑張ることを誓い合って解散する。翌、三十日に二年振りに、日野市の彼の自宅を訪問した。夕食は奥さん、嫁さん手作りの料理をご馳走になった。家族の方も一緒になって楽しい一夜であった。彼は平成二年に「頸椎々間板ヘルニア」で手術をし、その後、十四年には「腰部脊柱管狭窄症」で手術をしたが、いまだに杖を離せない状態である。それに、片足の膝が痛むおまけももらっている。医者から飲酒を止められているが、時々「養命酒」少量の晩酌で我慢しているそうである。昨年、一ヶ月程石和温泉で療養生活をしてきたが、「歳のせいかなかなか

よくはならない」とボヤいていた。

小生も二年ほど前から「変形膝関節症」になり、目下加療中である。しかし、まだ杖に頼ることもないし、同窓会行事にも参加出来るし、酒量は減ったが飲めるだけでも、幸せと思はねばならない。とうとう二人とも八十三歳になってしまった。「老兵は死なず、されど合うこともできず」にならないように、これからは健康に気をつけたいと思う。

また会える日を楽しみにしながら。

(この原稿は、平成16年8月6日に寄稿頂きましたが、紙面の関係で掲載できなかったものです)

校内の近況報告

本年度より、校内幹事長の要請を受け、前任の浅賀英雄先生の後を引き継いで引き受けることと成りました井上昭(第42期商業科卒)です。微力ながら頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

在学中は、レスリング部に所属しておりました。本校には、昭和49年に奉職し、平成15年までレスリング部の監督として生徒の指導にあたっておりました。

さて、在校生のクラブ活動の状況について報告したいと思います。まず、マーチングバンド部は、平成18年も全国大会に出場し、部員一同、一丸となってグランプリを目標に毎日厳しい練習に励んでおりました。結果は金賞を受賞し、素晴らしい成果を収めました。

陸上競技部においては、東京都駅伝の予選で2年連続2位という好成績を収めました。惜しくも3年ぶりの全

校内幹事長 井上 昭



国大会へは、あと少し手が届きませんでしたが、その他の種目においても、部員一人一人の力が、全国で活躍できる選手に確実に育っています。今後の活躍に期待したいと思います。

他のクラブ活動においても、指導者と部員が目標に向けて日々努力している姿勢が見られます。

本年度の体育祭は例年になく生徒会及び実行委員会を中心として、準備から本番に向けての生徒の行動が活気に溢れ、素晴らしい体育祭を作り上げたと思います。

また、東実祭においては準備期間が短かったため、クラス・クラブの生徒達には大変な作業でしたが、個人や団体等で参加した生徒達にとっては、満足できる東実祭だったと思います。

最後に、在校生の今後の活躍と同窓会の益々の発展を願っております。



体育祭 (2006.9.29)

正しいメガネ・ファッション性あるメガネ
・医療器具でもあるメガネ。を高度の技術
でご調整しております。

株式会社 メガネの金正堂

〒231-0045
横浜市中区伊勢佐木町2-68
TEL (045) 261-3418 FAX (045) 261-3252

<http://www3.ocn.ne.jp/~kinshodo/>
E-mail: kinshodo@poem.ocn.ne.jp



「一声運動」を!

第37期 米田 仁昌

この原稿を気軽に頼まれ、いざ書こうとペンを持ったが、何を書こうかと頭を悩ませた。

思い浮かぶのは、長年たざさわった同窓会のこと。今でも、本田会長を頭に、アレやコレやと皆さん、ご苦労さん。

昨年は、一本の文化祭への誘いの電話で、文化祭に行ってきた。久々の学校、歩を早めて学校へ。昔?の先生方とも出逢い、話を交わし、懐かしい一時を過ごした。

今年は団塊の年、この“東実”も一変するだろう。考えてみれば、あの文化祭への誘いの電話一本で行く気になった。一本の電話、一声のお誘い、ありがとう。

とにかく、年を重ねると外へ出るのが(人と逢うのが)億劫になりがちだ。若さを保つには、なるべく外へ出ること、人と逢うこと、それには先ず、親しい友人に一声を掛けることだ。友人→クラス会(飲み友達他、同趣味の友)→同窓会→人の和(輪)を広げつつ楽しい人生を過ごそうではないか。一人一人が、その気になれば同窓会もモット・モット大きな会になるだろう。

◆ご注意を◆

「名簿の作成中です ご寄付を!」などのサギの電話が横行しています。同窓会では寄付の要請は一切行っていません。ご注意ください。対処法として、後日連絡を取ることにして、名前、住所、電話番号、卒業年度、担任の先生の名前などを聞いて、事務局にご連絡ください。

(同窓会々長・事務局)

●お菓子のご用命はアルベリに●

和洋菓子、クッキー、焼菓子、ギフトetc
まごころこめてお届けします。

株式会社 アルベリ

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町7番14号
TEL : 045-581-5441
FAX : 045-573-6116

<http://www.alberi.co.jp>

第23期 山本 徳太郎

物故者

卒 期	氏 名	没 年
15期(蛭)	梁川 元成	
17期	飯泉 昇	平成17年 3月
17期	菊池 明	平成17年 1月
17期	小松原 祥市	平成15年 6月
17期	小池 秀幸	平成17年 6月
17期	横田 重	平成11年12月
17期	杉山 保三	平成14年 5月
17期	柴崎 直勝	平成18年 3月
17期	星山 明	平成17年 8月
17期	安中 清	平成16年 9月
17期	桜井 師郎	平成18年 5月
18期	赤地 兵治	平成18年 5月
18期	加藤 勤	平成17年
18期	末木 孝治	平成15年12月
18期	黒川 正義	平成16年
18期	小笠原 光雄	平成18年 6月
20期	小林 晴治	平成13年10月
20期	宮地 政幸	平成18年 4月
20期	柏倉 秀和	平成10年
22期	白井 広三郎	平成15年
22期	鈴木 国正	平成13年 9月
22期	高野 亭	平成17年 6月
22期	君野 敏幸	平成16年
23期	松原 和夫	平成12年 7月
33期	美濃島 定夫	平成18年 3月
34期	黒川 元一	平成15年 4月
36期	(旧)川口悦子	平成18年
37期	荒井 道雄	平成 1年
37期	小早川 健作	平成16年
37期	立花 茂	平成15年
37期	島田 生一	
41期	佐藤 公直	平成18年 10月
55期	遠藤 一浩	

* (蛭)は、定時制卒期です。

欠席で 見たい知りたい 続く夢
 再会の 夢半世紀 年賀書く
 賀状には 語り尽きない 六十年
 十九期 小出 与三

(同窓会行事の出欠席の返信はがきの備考欄から)

UNO CO.LTD.

ビジュアルプランニングのパートナー
写真の撮影・編集・印刷・製本まで

有限会社 ウーノ 03-3871-3448
110-003 東京都台東区根岸3-1-11

親師会 福田 真

事務局だより

同窓会行事に参加を!

6月…定期総会 11月…東実祭
 9月…懇親旅行 1月…新年会

同窓会行事は毎年上記の時期に開催予定となっております。同窓生の方であればどなたでも参加出来ます。

お知り合いの先輩・同期・後輩の方にご連絡頂き、お誘い合わせてご参加下さい。

詳細については、事務局にお問い合わせ頂ければ、案内状を送付致します。また、同窓会のホームページでもご案内と、お申し込みが出来ます。

常任幹事を募集しています!

皆さんの中で、同窓会のお手伝いをして下さる方が居ましたら、ご協力ください。常任幹事の仕事は、2ヶ月に1回位平日の夜に開催される会議へ出席していただき、同窓会行事等の打合せを行ったり、また諸行事へ積極的に参加する事等です。

同総会に関する各種お問い合わせ先
 (学校) Tel 03-3732-4481 Fax 03-3732-4456
 (事務局) Tel 070-5551-0460

平成18年度 同窓会幹事名簿 (第82期)

平成19年3月卒業のクラス別同窓会幹事です。

各クラス2名(12クラス:24名)

クラス	担任	幹事
M・A	佐藤 卓司先生	○日下部 光・大内 正勝
M・B	日比野 重光先生	石原 良介・五来 秀樹
M・C	村上 信人先生	栗田 行寛・土井 隼
E・A	小椋 幸江先生	原 隆文・刀根 大樹
O・A	瀧田 和良先生	中村 聡康・佐藤 功太
O・B	田口 結香先生	吉益 隆志・松本 真未
O・C	工藤 都志男先生	岩寺 千春・野口由香利
O・D	湯尻 英明先生	◎中村鉄太郎・鈴木 良太
O・E	町田 美香先生	高橋 一穂・中西 梢
O・F	宮田 宏輔先生	新井 光輝・兵 道明
O・G	小林 正文先生	佐藤 広規・緒方 克俊
O・H	鈴木 政廣先生	○齋藤 大貴・古島はづき

注：◎代表幹事○副代表幹事 学年主任＝北井 邦寿先生

平成19年度 定期総会のお知らせ

日時 平成19年6月9日(土)
 PM3:30~6:00
 場所 プラザ・アペア(蒲田駅西口)
 会費 懇親会費 3,000円
是非ご出席ください。

編集後記・事務局より

少子高齢化社会の到来となった昨年は、イナバウアーと景気の長期に亘る上昇の明るいニュースの一方、欠陥住宅に加え心の歪んだ人達の話題で賑わいました。一部分の人達のこととはいえ、改めて倫理観、家族愛、友情等、心の問題が問われています。心の教育と共に、家族の会話や愛情の重要性が改めて見直されています。

会報の編集も発想を豊かに、会員の近況、学校ニュース、同窓会の活動状況等、テーマと日程を決めて、見て楽しめる内容の充実と情報の発信に努めました。

寄稿、広告、情報提供等、関係各位の多大なご協力により、お陰さまで順調に進展致しました。有り難うございました。尚、ご意見、情報等お寄せ頂くことを歓迎致します。今後一層のお力添えを編集委員一同、お願い申し上げます。(会報部部員一同)

* * * * *

本会報は、卒業されてから3年迄の会員には送付しておりますが、以降は、同窓会役員・同窓会行事出席者・本会報への寄稿者等にしか送付しておりません。

在庫部数に限りがありますが、クラス会・同窓会の開催の際には、事務局にご連絡頂ければ、差し上げます。

ご遠慮なく、お申し込み下さい。(事務局)

編集・発行 同窓会会報部

責任者	川邊 國造	協力者	本田 位公子
担当	遠藤 孝一	〃	白田 佳彦
〃	塩野 理二	〃	滝口 房枝
〃	佐藤 まり子	〃	志賀 由直
〃	佐々木 健	事務局	米倉 美鈴